

3

国際遠隔授業（米国ノースカロライナ大学ウィルミントン校:UNCW）およびWSUオンライン海外研修（米国ワシントン州立大学:WSU）におけるSDGsプレゼンテーションとディスカッション

プログラム責任者：准教授 アンガホッフア司寿子（看護学部）



原則 6： 人々の国際市民としての意識を高める

原則 9： 持続可能性を推進する

1. 開催日時

- 国際遠隔授業(UNCW) 2021年2月2日（火）AVホール
- WSUオンライン研修 2021年2月5日（金）個別参加のZoomミーティング

2. プレゼンの概要

1) Global Warming and Health Problems

SDGs目標13に関連し、世界的な課題となっている地球温暖化と健康問題に着目し、気候変動に伴う熱中症リスクを抑制するためにひとり一人が環境保持、予防を意識した生活を送る解決策を考えることをねらいとした。世界の気温上昇の現状を伝え、日本における熱中症の搬送や死亡ケースを統計で示した。世界の取り組みでは、186の国と地域でパリ協定が締結され、開発途上国10カ国は気候変動のための第1次国内適応計画に参加していることを伝え、また日本での熱中症対策の一つとして「打ち水」の文化があるなどを紹介した。

解決策としては、平均気温の上昇を抑えるために現在行われている3Rの推進や節電、マイバックスの使用といった地球温暖化対策を推進すること、次に、平均気温が高い日は熱中症ケースが増えることから、暑さの避け方や水分補給、健康管理を十分に行うことでの対策について具体例を用いて紹介した。



2) Water Resources Relation to Environment and Health

SDGs目標12と13に関連し、資源である水と環境および健康との関わりをテーマに、生活に大きく影響する水資源に着目した解決策を考えることをねらいとした。歴史的背景として日本の公害の一つである水質汚濁が原因となったイタイイタイ病や水俣病について説明し、その対策として1993年に環境基本法が制定されたことを紹介した。続いて、ごみ等による海洋汚染、油類・化学物質の流出の問題を説明し、また日本において水が資源としてどのように使われているか、文化的背景を踏まえて特徴を示した。加えて国民への直接的な働きかけとして、水循環基本法が制定されたこと、自治体との連携について説明した。解決策としては、プラスチックレジ袋からエコバッグの使用への転換、紙製ストロー利用の拡大、ごみが海に流出しないような個人の取り組み等を発表した。



3) 履修学生の感想・評価

- アメリカの学生から質問を多くもらい、興味をもってプレゼンを聞いてくれていたことが分かってよかった。自分もアメリカの学生の積極性を見習いたい。
- アメリカの学生は日本の学生とは違った視点からの意見や感想があつてとても勉強になった。
- ディスカッションを通して、私たちも発表内容や日本の社会についても深く考える機会となった。また、思いがけない質問が来たりもしたがアメリカの学生の視点についても知ることができ興味深く感じた。
- 英語でのプレゼンはやはり難しく緊張したが、メンバーと協力しながらプレゼンをつくり発表できて嬉しかったし、楽しい経験ができた。

